平成 30 年 12 月 30 日　VoL.1097

社長の経営哲学の構築にお役立ちする

経営者への活きた言葉

税理士法人　優和

TEL ０３-３４５５-６６６６
FAX ０３-３４５５-７７７７

経営者への活きた言葉

「ＧＡＦＡ」にどう対応するか　　柳川　範之（東京大学大学院教授）

１．人工知能（ＡＩ）やデータ解析の急速な発達を背景に、データ蓄積の重要性が強く認識されるようになってきた。そのため、この分野ではたくさんのデータを集めた企業が有利になる。つまり経済学でいう「規模の経済性」が働く傾向にある。その結果、米グーグルや米アマゾンなど俗に「ＧＡＦＡ」と呼ばれる世界的プラットフォーム企業が世界を席巻するのではないか、という主張も聞かれる。

２．ＡＩやデータ解析は、それぞれの企業が考える戦略に合わせた適切なデータが集まらない限り、解析の成果は上がらないのだ。日本企業は、ＧＡＦＡと違い、世界中の情報を大量に集めることは難しいかもしれない。しかし、適切なデータを自社の戦略に合わせて集めることができれば、世界的にも優位性を獲得できる可能性は十分ある。

３．今後は価格戦略、特に需給状況や購買履歴に応じて、価格をきめ細かく変える動学的価格戦略も一層重要になる。また新製品の開発においても、データはもっと活用されるべきだ。データ解析の利点と限界を把握したうえでの経営戦略が求められている。　（参考：「週刊東洋経済」2018 年 9 月 29 日号）

経営者のための営業学

生産性を上げる新しいオフィス

１．数年前から日本でも一部企業が導入するようになった、社員が毎日座る席を自由に選べる「フリーアドレス制」。先進企業が次々と採用しているイメージのためか、経営者の中にはフリーアドレスにすれば生産性が高まる」と考えている人もいる。だが、ことはそう単純ではない。フリーアドレスの目的は無駄な空席をなくすこと。生産性はそれだけでは必ずしも向上しない。

２．ならば、どんなオフィスが生産性を上げるのか。オフィスを「協働の場」として磨いていくことだ。プレーンストーミングやプレゼンテーションなど、人が集まる仕事の生産性を第一に考えてオフィスを作るべきだ。それはアクティブティ・ベースド・ワーキング（ＡＢＷ）と呼ばれる考え方だ。100 人に 120 席分の多様なスペースを与えるのだ。オフィスを改善して協働が活発になり質のいい成果が出る。（参考：「日経ビジネス」：2018 年 9 月 17 日号）

経営者のための経済学

持続的な経済成長の原動力は何か

１.今年のノーベル経済学賞を受賞した米ニューヨーク大学のポール・ローマー教授は、持続的な経済成長の原動力はイノベーション、つまり知識やアイデアの蓄積度合いが握るという「内生的成長理論」を確立した。日本の長期的な経済成長の見通しについても、技術を引き上げたり、新しいアイデアを取り入れたりできるかで決まると言及している。

２.イノベーションには「知の深化」と「知の探索」が必要であると指摘する早稲田大学ビジネススクールの入山章栄准教授は、「知の深化とはすり合わせのことで日本のモノづくりが得意としてきた分野であるが、ゼロから新しい価値を生み出すには異分野の知と知の新しい組み合わせを探る知の探索が欠かせない」と指摘する。

（参考：「Ｗｅｄｇｅ」2018 年 11 月号）

古典に学ぶ

立志は人生の大切な出発点

（解説）かくのごとく立志は人生にとって大切な出発点であるから、何人（なんぴと）も軽々に看過することはできぬのである。立志の要はよくおのれを知り、身のほどを考え、それに応じて適当なる方針を決定する以外にないのである。誰でもよくそのほどを計って進むように心掛けるならば、人生の行路において間違いの起こるはずはないことと信ずる。　（参考：渋沢栄一「論語と算盤」）：国書刊行会